

パブリックコメント手続(ご意見の募集)

「えびの市観光振興計画(平成24年度～平成28年度)」(概要版)について

※パブリックコメントとは、市が計画等を策定する際にその内容を公表し、市民の皆様から寄せられた意見等を考慮して計画等の決定をしていくものです。

ご意見の募集期間

平成24年2月9日(木) ～ 平成24年3月9日(金)

お問い合わせ:観光商工課 観光係

電話 0984-35-1111(代表)

えびの市

えびの市観光振興計画

[平成24年度～平成28年度]

(パブリックコメント用 概要版)

えびの市

はじめに	5
(1) 計画策定の趣旨	5
(2) 計画の位置づけ	5
(3) 計画の期間	5
えびの市観光の現状と課題	6
(1) えびの市観光の現状	6
(2) 観光旅行者の満足度	6
(3) 観光旅行者の属性	9
(4) えびの市観光の潜在力	9
えびの市における観光産業の重要性	10
(1) 観光産業の位置づけ	10
(2) 観光がもたらす経済波及効果	10
観光を取り巻く環境の変化	11
(1) 社会経済状況の変化	11
① 少子高齢化・人口減少社会の到来	11
② 団塊世代の大量退職に伴う旅行市場活性化	11
③ 価値観・ライフスタイルの多様化	12
④ 安心・安全や環境に対する意識の高まり	12
(2) 観光需要・観光環境の変化	12
① 成熟化する観光ニーズ	12
② 旅行人数の小グループ化	12
③ 観光地間競争の激化	12
えびの市観光の課題	13
(1) ニーズ変化への対応	13
(2) 顧客満足度の向上	13
(3) 魅力ある観光地づくり	13
(4) 温泉地の活性化	13
(5) 周遊の広域化、日帰り観光の増加への対応	14
(6) 効果的な誘客宣伝	14
えびの市観光の将来像	15
(1) えびの市観光がめざす将来像	15
(2) 将来像実現に向けての基本姿勢	15
① 人情と真心でもてなす観光人材の醸成	15
② 歴史や文化が織りなす観光資源の結びつけ	15
③ 自然と景観を生かしたわくわく観光の推進	16

④歩いて楽しい温泉地を核とした観光産業の育成.....	16
（3）達成目標の設定	17
計画の推進体制.....	18
（1）推進体制	18
（2）役割分担の基本的な考え方	19
（3）計画の検証・評価	20
重点プロジェクト	21
施策体系	29
（1）自然環境との共生	29
（2）食文化の活用	30
（3）人づくり	31
（4）特色ある地域づくり	32
（5）受入環境の整備	33
（6）広域観光の振興	34
（7）観光型産業の推進	35
（8）情報発信	36

はじめに

えびの市では、口蹄疫の発生、新燃岳の噴火などの自然現象も重なり、観光業での落ち込みが危惧されている。例えば、えびの市観光の核心地であるえびの高原での入込者数が減少し続け、その数は現在ではピーク時の約半数となっている。

豊富な観光資源に甘え、ただ漫然と観光旅行者を受け入れていた「これまでの観光に対する姿勢」をえびの市民が踏襲し続けていては、えびの市観光に明るい未来はないだろう。

まずは、こうした現状をしっかりと認識することが必要である。そして、ここから脱却するためには、観光旅行者の視点に立って、恵まれた観光資源に磨きをかけ、多くの人が繰り返し訪れる魅力ある観光地づくりを推進しなければならない。

えびの市では、これまで、平成3年度を初年度として、観光振興計画を策定し、観光の興隆を図ってきた。国においても、近年の観光をめぐる諸情勢の変化に的確に対応するため、観光基本法を改正し、観光立国推進基本法を制定したところである。えびの市でも、このような情勢の変化に対応した新たな計画づくりを行う必要がある。

計画の推進にあたっては、えびの市観光の再興のために、市全体で「魅力ある観光地づくり」を推進し、「市の基幹産業のひとつとして観光産業を位置づける」ことが大切であり、協働して取り組んでいくことが必要である。

(1) 計画策定の趣旨

○この計画は、えびの市観光の危機的状況を踏まえて、観光を取り巻く情勢の変化に的確に対応し、観光施策を計画的かつ戦略的に推進・策定するものである。

(2) 計画の位置づけ

○この計画は、えびの市観光の再興に向けた展開方策を明示し、市、観光関連団体、観光事業者、地域住民が、適切な役割分担のもと、互いに協働して取り組むための指針を提示するものである。

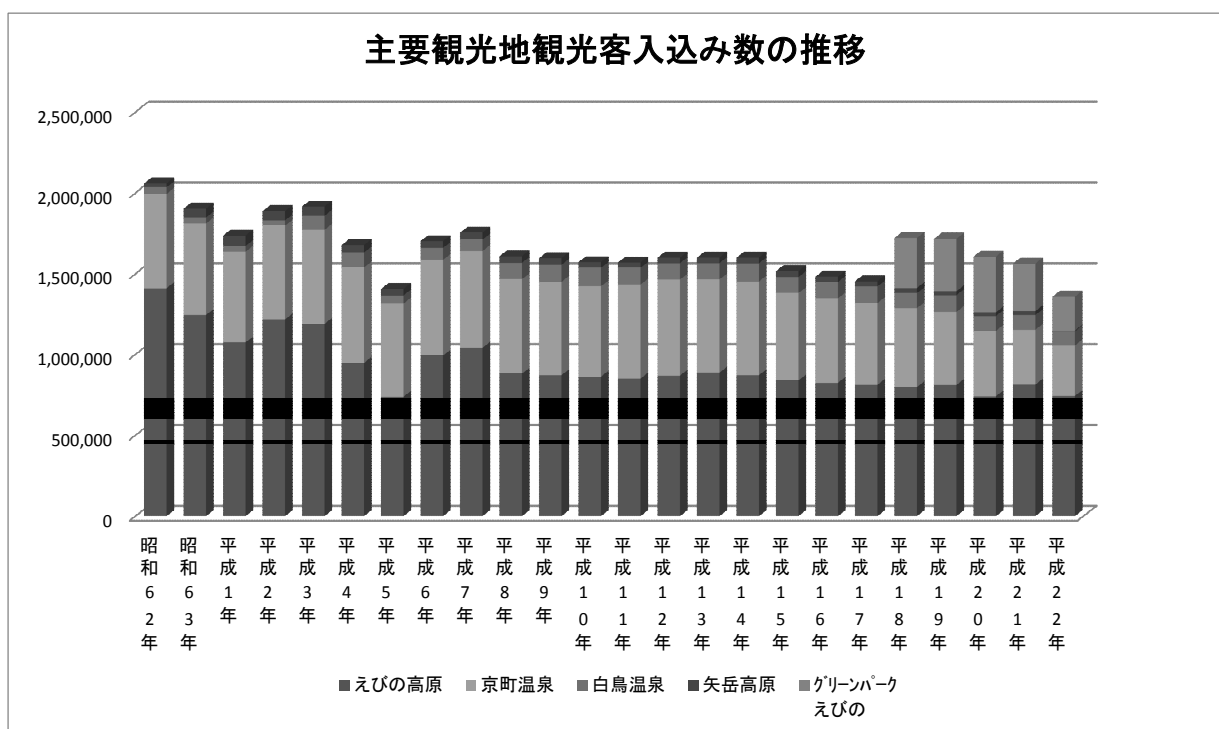
(3) 計画の期間

○平成24年度(2012年度)を初年度とし、平成28年度(2016年度)を目標年度とする5か年間を対象とする。

えびの市観光の現状と課題

(1) えびの市観光の現状

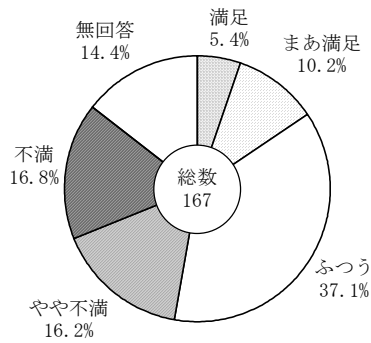
○近年、九州新幹線全線開業により、南九州の多くの自治体で観光旅行者数が増加傾向にある中、えびの市では、口蹄疫の発生や新燃岳の噴火活動によって、特に、えびの高原の利用者数や京町温泉の宿泊者数の落ち込みが激しく、観光旅行者数は減少傾向にある。



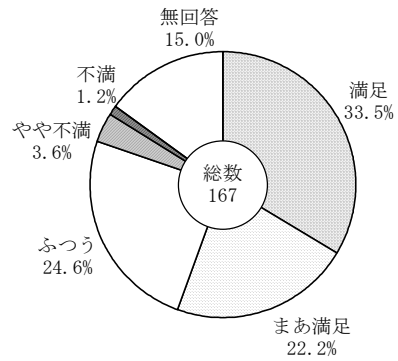
(2) 観光旅行者の満足度

○えびの市については、アンケート調査結果から推察すると、自然に対する評価が一番高く、温泉・癒しについても約4割が満足、まあ満足と評価している。逆に買物・賑わい・娯楽の面では評価がかなり厳しく、グルメ・特産物でも低い評価となっている。また、ホテル、旅館などに対する総合的な満足度については、高評価の結果が伺える。

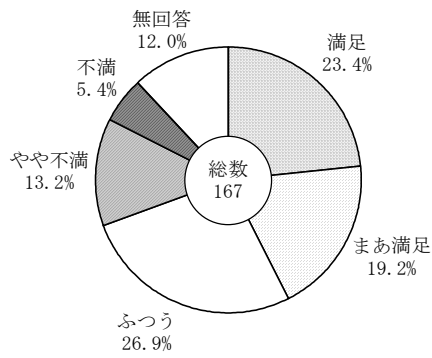
問12. えびの市の満足感【スポーツ・レクリエーション】



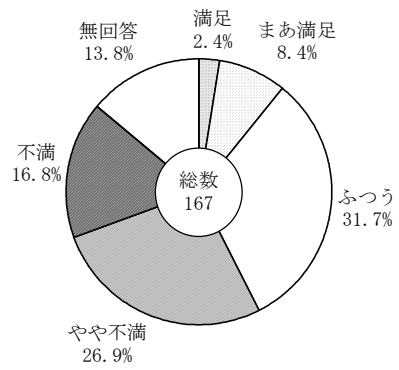
問12. えびの市の満足感【自然】



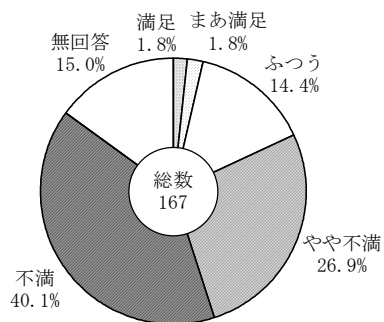
問12. えびの市の満足感【温泉・癒し】



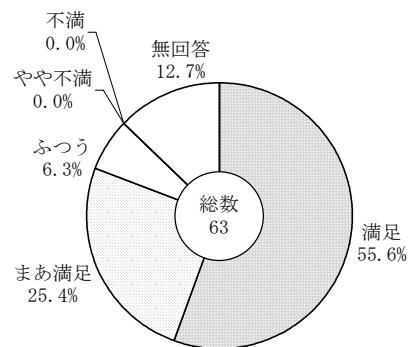
問12. えびの市の満足感【グルメ・特産物】



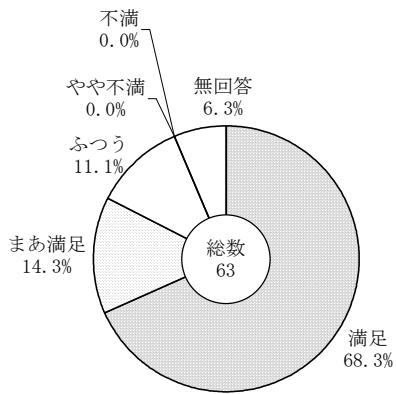
問12. えびの市の満足感【ショッピング・にぎわい・娯楽】



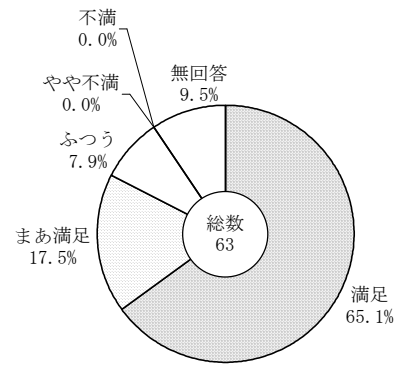
問14. 宿泊施設の満足度【総合的】



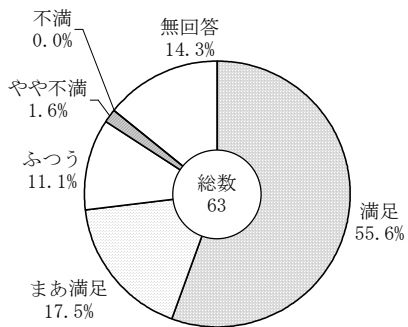
問14. 宿泊施設の満足度【部屋】



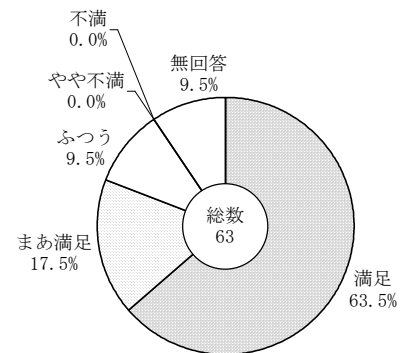
問14. 宿泊施設の満足度【お風呂】



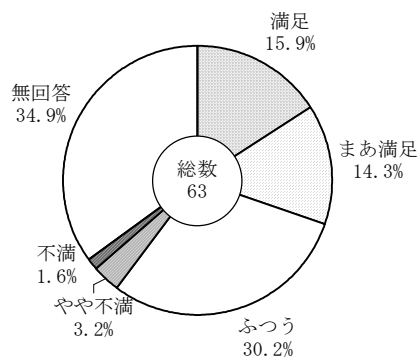
問14. 宿泊施設の満足度【食事】



問14. 宿泊施設の満足度【接客】



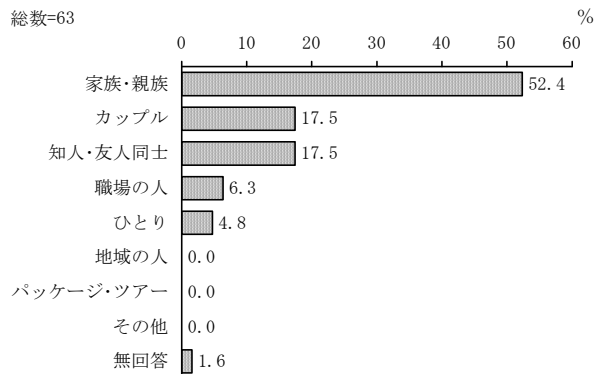
問14. 宿泊施設の満足度【アメニティ】



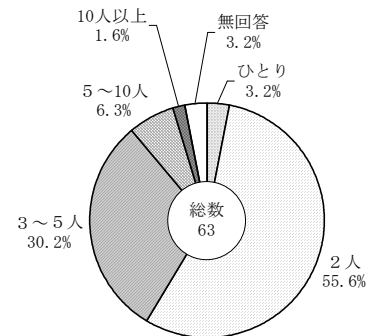
(3) 観光旅行者の属性

○えびの市を訪れる観光旅行者は、家族・親族が半数を占め、同行者人数は2人が約6割、3～5人が約3割と家族旅行が中心となっており、宮崎市を含む宮崎県内からの来訪が約3割、続いて、熊本県内、福岡県内となっている。旅行の目的は、保養・休養、観光等が約8割を占めている。

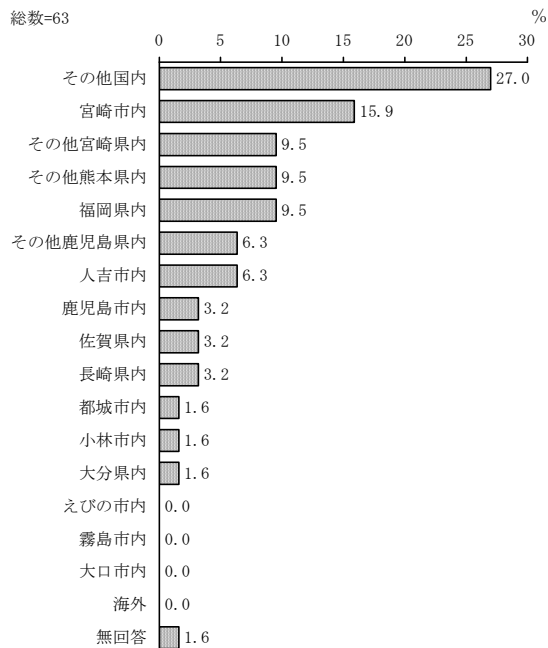
問4. 同行者



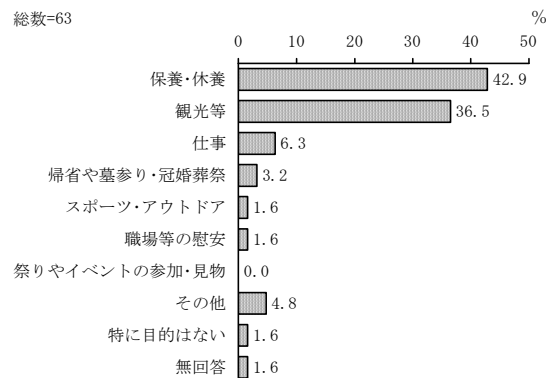
問5. 同行者人数



問6. どこから



問7. 旅行の目的



(4) えびの市観光の潜在力

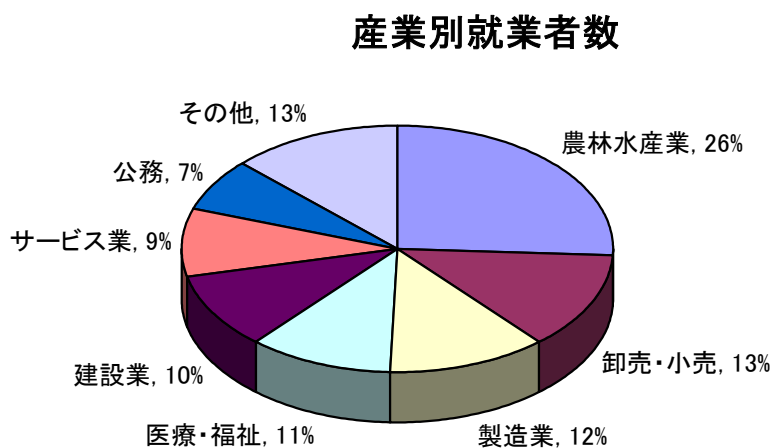
○えびの市には、えびの高原、県立矢岳高原、川内川などをはじめとする自然が豊富で、数ヶ所で温泉が湧出する。温泉を中心に自然を観光資源として生かして地域を活性化させることが観光振興の要所と考えられている。

えびの市における観光産業の重要性

(1) 観光産業の位置づけ

○観光産業は、宿泊業、飲食業、運輸業など幅広い分野を包含した裾野の広い産業である。

○ホテル・旅館などのサービス業、卸売・小売業の就業者数などからも、観光産業はえびの市の基幹産業の一つといえる。



資料：平成17年国勢調査より

(2) 観光がもたらす経済波及効果

○観光は、宿泊業、飲食業、運輸業などの観光産業そのものに加え、農林業や商工業など幅広い産業に対する生産や雇用機会の増大に大きな波及効果をもたらし、地域経済を活性化させると考えられている。

観光を取り巻く環境の変化

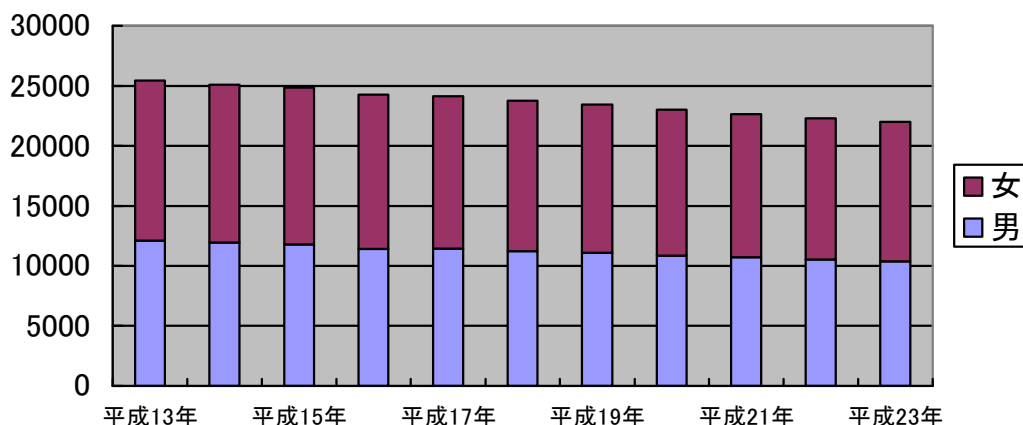
(1) 社会経済状況の変化

① 少子高齢化・人口減少社会の到来

○我が国では、出生率が長期的に低下し続ける一方、平均寿命の延伸などにより総人口に占める高齢者の割合が急速に増加している。また、総人口は、既に減少局面に入っており、今後、本格的な人口減少時代を迎える。

○えびの市では、既に全国に先行して平成13年から人口の減少が続いている。その一方で、高齢化が全国平均より高い水準で進んでいることから、今後、人口減少は加速度的に進行していくものと予測される。

えびの市住民基本台帳人口(12月末日現在)



② 団塊世代の大量退職に伴う旅行市場活性化

○団塊世代の大量退職に伴い、元気なシニアの余暇活動と消費が高じ、彼らの健康志向や自然回帰思考などに関連した、新たなサービスの創造と観光市場の活性化が期待されている。

③価値観・ライフスタイルの多様化

○経済的発展や平均寿命の伸などを背景に、個人の価値観やライフスタイルの多様化が進み、自然や文化芸術、健康などを志向し、心の豊かさとゆとりに重きを置きつつ、生活の質を重視する意識が高まっている。

④安心・安全や環境に対する意識の高まり

○自然災害の頻度と規模の増大、感染症の発生、食品の安全問題、深刻化する地球温暖化などを背景に、安全・安心や環境に対する人々の意識が高まっている。

(2) 観光需要・観光環境の変化

①成熟化する観光ニーズ

○観光旅行者が成熟化し、自然志向、健康志向、本物志向により、エコ・ツーリズムやグリーン・ツーリズムといった多様な体験型観光のニーズが高まっている。

②旅行人数の小グループ化

○個人の価値観やライフスタイルの多様化、高度情報化社会の進展などに伴い、観光旅行の形態が、職場や学校、地域などにおける団体旅行から家族や友人・知人などと楽しむ小グループ旅行や個人旅行へと移行している。

③観光地間競争の激化

○高速道路や新幹線など、全国各地の高速交通整備に伴う移動時間の短縮と広域化に加え、グローバル化によって、日本人の海外旅行が増加するなど国内外の観光地間競争が激化している。

えびの市観光の課題

(1) ニーズ変化への対応

○旅行の形態が団体旅行から個人やグループなど少人数化し、また、物見遊山型から体験・滞在型の本物志向へと観光旅行者のニーズが多様化、高度化している。

○観光ニーズの変化に的確に対応するため、観光資源、受入環境、情報の受発信の全般にわたって取組の充実を図る必要がある。

(2) 顧客満足度の向上

○市内のホテル、旅館、飲食店などに対する全体的な満足度は高いものの、事業者間の個別の差が大きいことから、ホスピタリティ向上や地産地消を地域全体で推進することなどにより、総合的に満足度の向上を図る必要がある。

(3) 魅力ある観光地づくり

○えびの市には、自然環境や温泉、名所旧跡、歴史・文化などの観光資源が豊富に存在している。

○今後は、こうした観光資源に加え、伝統的な生活に根差した暮らしや食文化、町並みなど地域の特性を活かした観光魅力づくりを行う必要がある。

(4) 温泉地の活性化

○えびの市観光において大きな役割を担ってきた温泉地の多くは、観光ニーズが多様化・高度化し、旅行形態が変化する中で、低迷が続いている。

○観光事業者の経営力の強化を図るとともに、魅力ある観光地づくりを行い、スポーツ合宿等の誘致を推進し、活性化を図る必要がある。

(5) 周遊の広域化、日帰り観光の増加への対応

○高速道路や新幹線など高速交通網の整備の進展に伴い、観光旅行者の周遊の広域化や日帰り観光の増加が予想される。一方で、通過型観光地へのシフトが懸念される。

○観光旅行者が繰り返し訪れ、長時間の滞在を楽しめる魅力ある観光地づくりに取り組むとともに、県内地域間の連携、近隣県との連携を強化し、広域的な観光ルートづくりや誘客宣伝活動を行うことなどにより、観光旅行者の行動の変化に対応する必要がある。

(6) 効果的な誘客宣伝

○高度情報化社会の中で、雑誌やテレビ・ラジオからインターネット・携帯サイトや口コミまで、観光旅行者の情報収集媒体は、急速に多様化している。

○情報の受け手となるターゲットを明確にし、きめ細やかで質の高い情報をインターネットなど様々な広報媒体を通じて発信し、訴求効果の高い誘客宣伝を展開する必要がある。

えびの市観光の将来像

(1) えびの市観光がめざす将来像

○観光を取り巻く情勢が大きく変化する中で、観光旅行者数や観光消費額の減少傾向に歯止めをかけ、えびの市観光の再興を図るためには、魅力ある観光地づくりと持続的な観光産業の育成に取り組む必要がある。

○そのため、えびの市が誇る豊かな自然環境や美しい景観を守りながら、多彩な歴史や文化に磨きをかけ、併せて観光関連事業者および地域住民の接遇力の向上に取り組む必要がある。

○こうした取り組みを通じて、県内外の多くの人々が繰り返し訪れ、えびの市民の人情と真心に触れることによって、時代を超えて愛される「カルデラの田園温泉郷」としてのイメージを定着させたい。

(2) 将来像実現に向けての基本姿勢

将来像の実現に向け、次の基本姿勢に立って観光振興施策を推進していく必要がある。

①人情と真心でもてなす観光人材の醸成

○第一級の自然環境と景観に恵まれた「えびの市」観光を振興するためには、財産である人材（人財）の育成が最も大事と考えられる。特に、来訪者が何を求めているかを即座に理解できる能力の向上が求められる。

○来訪者が、観光地だけでなく「えびの市」全体の魅力を楽しみ、リピーターとしてまた訪れてもらうためには、観光関連事業者に加え、生活者である地域住民自らが地元の魅力を再認識することが求められる。

②歴史や文化が織りなす観光資源の結びつけ

○観光地間の競争が激化する中で、えびの市の独自性に磨きをかけるには、カルデ

ラ内の名所・旧跡について、歴史・地理・文化・芸術などの特性を正當に評価し、これらの観光資源としての価値と可能性を市民が認識するべきである。

○一方、歴史・地理・文化・芸術といった心の豊かさを実感できるような体感型観光への対応が求められており、それには上記の観光資源をつなぎ合わせ、来訪者個々の需要に応じた新たな観光ルートやプログラムの整備を図る必要がある。

③自然と景観を生かしたわくわく観光の推進

○えびの市では、美しく豊かな自然環境や景観を代々継承し、それを基盤として歴史・文化・産業などを発達させてきた。大地の成り立ちを中心に植物・動物・人間との関係にも注目するジオパークなど、エコツーリズムを積極的に推進する。

○自然環境と景観を活用した観光として、自然に負担をかけずにソフト面を重視する形態が望まれる。自然の営みを基盤にした農業集落での体験型観光や川内川を生かしたスポーツ観光などを促進させる。

④歩いて楽しい温泉地を核とした観光産業の育成

○誰もが安心してえびの市での旅行を楽しめるように、温泉地を中心に旅行関連施設の利便性を向上させ、特に来訪者に直接かかわる旅館・ホテル業や飲食業などの観光産業では、その分野において先進性と独自性を追求する。

○「カルデラの田園温泉郷」の特性を生かすために、ウォーキングコースやサイクリングコースの開発を行い、「温泉マップ」の充実を図りながら、温泉地を中心に周辺の観光資源を周遊できる「保養のしくみ」の創成に取り組みたい。

(3) 達成目標の設定

○将来像実現に向けては、計画の実効性を検証・評価できるよう、観光サービスに対する満足度、観光地利用者数、宿泊者数などについて達成目標を設定する必要がある。

○目標の達成に向けては、市、観光関連団体、観光事業者、地域住民などが連携を密にし、えびの市を挙げて取り組む必要がある。

○なお、達成目標については、社会経済情勢の変化や計画の進捗状況に即して内容の見直しを行うなど、柔軟な対応を考慮に入れる必要がある。

計画の推進体制

(1) 推進体制

○市、観光関連団体、観光事業者、地域住民など、多様な組織や個人が、適切な役割分担のもと互いに協働し、一体となって施策を効果的に展開する必要がある。

○市民一人ひとりが「えびの市のセールスマン」であるとの自覚を持ち、それぞれが主体的に観光振興に取り組むことが求められている。

○市においては、観光商工課が中心となって、関係課などとの密接な連携のもと、観光施策の調整や地域の取組への支援などを行い、総合的に施策を展開する。

○市とえびの市観光協会との役割分担を明確にし、観光振興施策を効率的で効果的な展開を図る必要がある。

(2) 役割分担の基本的な考え方

○施策の推進にあたっては、市、観光関連団体、観光事業者、地域住民などの役割分担を明確にする必要がある。

市	<p>①地域の特性を生かした魅力ある観光地づくりの推進に努める。</p> <p>②観光事業者や地域住民との連携を図り、地域の取組に対する支援や調整に努める。</p> <p>③観光振興にかかわる基盤施設などの整備の推進に努める。</p> <p>④地域内での観光推進を相互的に補い高めあい、広域連携の推進に努める。</p>
観光関連団体	<p>①自らが担うべき役割や事業目的を認識しながら、観光情報の発信、観光旅行者の誘致、受入れ体勢の整備などに努める。</p> <p>②行政や業界の枠を超えた連携を図り、市、観光事業者などが実施する観光振興に関する取組への協力・支援に努める。</p>
観光事業者	<p>①自らの企画力と経営力を高め、観光旅行者の多様なニーズに的確に対応した快適なサービスと環境を提供し、顧客満足度の向上に努める。</p> <p>②地域へのかかわりと意義を認識し、他産業との密接な連携のもと、地域社会・地域経済への貢献と魅力ある観光地づくりに努める。</p>
地域住民	<p>①一人ひとりが、地域の理解を深め、また、地域への愛着と誇りを大切にし、自らが観光魅力の案内人となって来訪者を温かく迎え入れるように努める。</p> <p>②地域における観光振興に関する取組に積極的に参画し、自らも楽しみながら、魅力ある観光地づくりに努める。</p>

(3) 計画の検証・評価

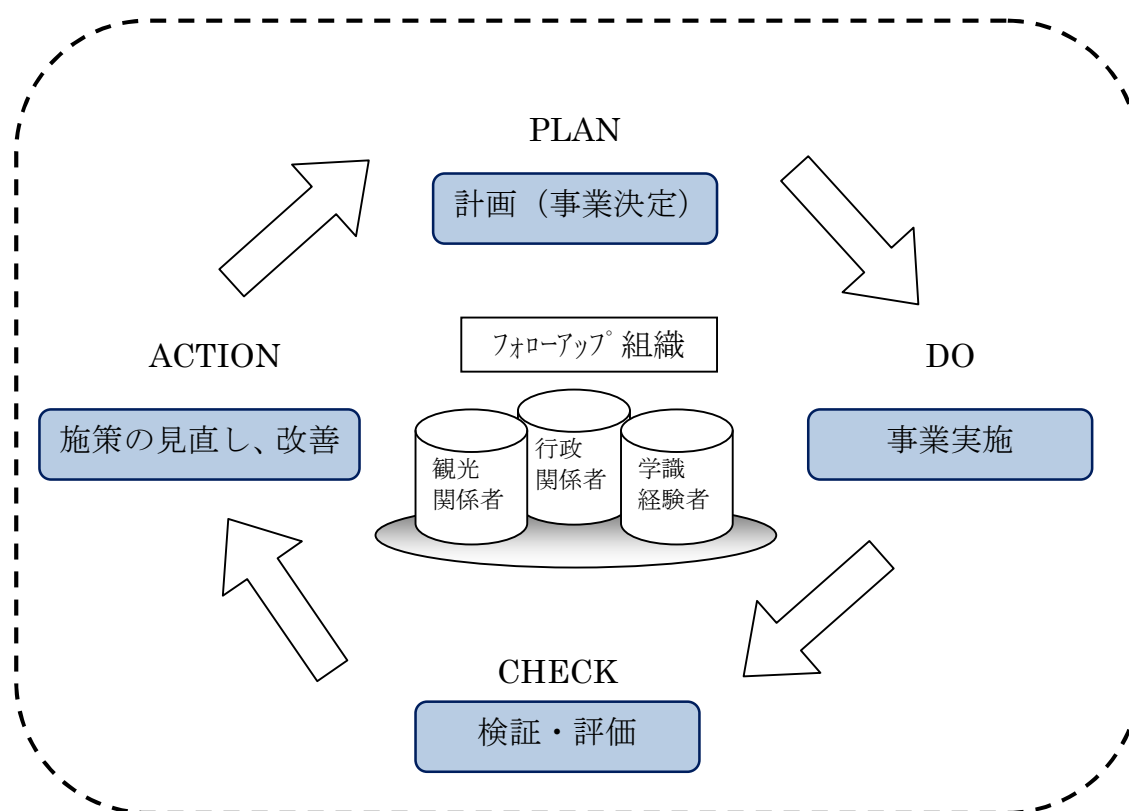
○社会経済情勢や観光ニーズが急速に変化している中、観光振興に関する施策も、その変化に柔軟かつ的確に対応するものでなければならない。

○計画をより実効性のあるものとするため、P（計画）→D（実施）→C（評価）→A（改善）のサイクルにより、随時、事業の進捗管理と成果の検証・評価、施策の見直しを行う必要がある。

○そのため、観光関係者、学識経験者、行政関係者などで構成される、えびの市観光審議会を継続して開催する必要がある。

○施策の効果を客観的に評価するため、各種統計の整理や実態調査などを実施し、えびの市にかかわる観光基礎データの充実を図る必要がある。

○市民の視点に立って計画を推進するため、計画の進捗状況と評価結果を公表して情報の公開に努めるとともに、市民からの改善意見の反映を図る必要がある。



重点プロジェクト

○観光旅行者数と観光消費額の減少傾向に歯止めをかけるためには、えびの市を訪れた観光旅行者が、「もう1ヶ所」、「もう1泊」、「もう一度」と思えるよう、市内の受入基盤の強化を図る必要がある。

○そのためには、えびの市観光の弱い部分を早急に補強するとともに、えびの市ならではの観光魅力に更なる磨きをかけていく必要がある。

○以上の観点に立って、次に掲げる事項については、早期かつ重点的に取り組むべきである。

【重点プロジェクト1】 通称、「えびの観光研究会」プロジェクト

《趣旨》

○えびの市の観光の実態を内外の視点を交えてできるだけ客観的に評価し、強化すべき項目を整理する必要がある。そこで、観光審議会を継続的に開催する中で、自主的に情報交換を行える“場”として「えびの観光研究会」を創出する。

《主な取組例》

- ①観光施策の評価にかかわる基礎資料として活用するため、観光旅行者の生の声を収集し、様々な視点から分析を加え、情報の整理を行う。
- ②その情報は、えびの市周辺の競合的な観光地や先進的なそれとの比較を通じて、観光事業者や地域住民も共通認識を得られるため、講習会などの資料としても活用する。
- ③研究会で取り扱うテーマは、優先順位が高いと思われるものから、順次トピック的に取り上げる。
- ④顧客満足度の向上とリピーターの増加を図るため、観光事業者から地域住民に至るまで、笑顔とあいさつを心がけるとともに、来訪者の視点に立って接客力を向上させるための講習会を実施する。

【重点プロジェクト2】 「昭和の温泉郷 えびの京町」プロジェクト

《趣旨》

○昭和初期からの歴史を持つえびの京町温泉では、“昭和の温泉郷”としての景観が断片的に残っており、「田園の中の温泉郷」としてのイメージも有することから、これらを「価値ある景観的な資源」とみなし、テーマで統一された空間の整備と宿泊の魅力づくりを推進する。

《主な取組例》

①地域住民が参加する京町温泉活性化プロジェクト会議と行政機関の連携強化と計画のフォローアップを実施する。

②宿泊業を中心とする観光事業者のホスピタリティの向上や人材の育成、子どもからお年寄りまでえびの市を挙げて来訪者をもてなす姿勢のさらなる向上を図る。

③地域住民参加、都市計画との連携により、京町温泉駅・真幸駅を中心とした美しい町並み景観整備の推進を図りながら、古民家再生やごみ拾いなどの実践を促す。

④周辺の商業地区や幹線道路と雰囲気画するため、生垣やプランターなどを効果的に配して、緑の空間を創出する。

【重点プロジェクト3】 「安全で健康な“えびの料理”」プロジェクト

《趣旨》

○「食」は旅行の最大の楽しみの一つとされており、伝統食のスタイルを踏襲したメニューの提供、宿泊施設や飲食店での地産地消メニューの創成サポート、食のブランド化の推進などにより、えびのならではの「食」の魅力を提供する。

《主な取組例》

- ①地域が一体となって地産地消を推進し、生産者から宿泊施設や飲食店まで、地域の食材を利用した特色あるメニューづくりと料理の提供を推進する。
- ②米や野菜に原産地呼称管理制度認定品を取り入れ、えびの市の多彩な「食」のブランド化を推進し、えびの市の基幹産業である農業や畜産産業を基盤にした観光業での収益を拡大させる。
- ③自然環境を土台に農業などで培われた豊かな食資源、健康づくりと安心安全な「料理」を結ぶ、「実り」から「生命（いのち）」までつながる生活文化をテーマとした食の魅力づくりに努める。

【重点プロジェクト4】 「カルデラの上から下まで満喫」プロジェクト

《趣旨》

○霧島ジオパークに属する「加久藤カルデラ」の一部を市域とするえびので、えびの高原だけでなく、盆地内の様々な観光資源を周遊するコースやプロジェクトの開発が重要である。また、えびのを来訪する観光旅行者の約8割は、クルマを利用している。このような特性を踏まえて、クルマの「道」を重視した取組を推進し、大自然展望ポイントや休憩場所などの整備との連携を推進したい。さらに、「道」でも、トレッキング・サイクリングなどの運動にかかわる規模のものについても注目し、人びとの「健康」を向上させる取組を促進させる。

《主な取組例》

- ①えびの高原・県立矢岳高原におけるジオパークの拠点となる体験学習施設及び学習メニューの整備と、大自然を体感できる展望スポットの整備を図る。
- ②車をターゲットとした、物産館やサービスエリアなどでの広域的観光情報の発信と誘客宣伝活動の展開を図りながら、主要インターチェンジなどから主要観光地へ、主要観光地から周辺の観光地へと誘導するための広域観光ネットワークづくりを推進する。
- ③豊かな自然、多彩な文化芸術、地域食材を生かした食事、効能豊かな温泉などを生かして、心身の癒しとウェルネスの保持にかかわる「健康」をテーマとした総合的な観光メニューを新たに提案する。

【重点プロジェクト5】 「物産館から発信」プロジェクト

《趣旨》

○豊かな自然環境、歴史ある文化芸術、地域食材を生かした食事、効能豊かな温泉など、えびの市の長を最大限に活用できる「自然と人にやさしい旅」をテーマとした活動を「物産館」を中心に展開し、新たな旅の魅力を創造・発信する。

《主な取組例》

- ①えびののファンづくりのためにも、観光情報の発信の頻度の増加と観光関連情報のネットワーク化の推進を図り、えびの市観光協会の機能強化を促進する。
- ②団塊世代、ファミリー、女性、外国人などターゲットを明確にし、時節に応じて、広報媒体を効果的に活用した広報宣伝を推進する。
- ③車窓からの景観、えびの市内でのサンセットポイントなど魅力ある景観の情報発信を実施し、これを生かした誘客宣伝活動を展開する。
- ③安全で健康な「えびの料理」の開発と提供を行い、伝統文化の継承に関わる講習会の場とするなど、市民が集い、文化レベルの向上につながる活動を実施する拠点として物産館を活用する。

【重点プロジェクト6】 「人や自然で“ときめき”プロジェクト

《趣旨》

○従来の旅行とは異なり、旅行先での人や自然との触れ合いが重要視される「ニューツーリズム創出・促進事業」を推進するためにも、えびのの基幹産業である農業をベースとしたアグリツーリズムを始めとした産業観光、地域の自然や歴史文化の特性を活かしたエコツーリズム、グリーン・ツーリズム、ヘルスツーリズム、スポーツツーリズム、文化観光を新たな滞在型旅行商品として開発し、流通促進を図り、地域の活性化にもつなげる。

《主な取組例》

- ①豊かな自然、歴史文化、地域食材を生かした食事、効能豊かな温泉など、心身ともに癒される新たな滞在型旅行商品の開発と流通を促進する。
- ②スポーツ合宿や修学旅行等、団体旅行者に対応できる受け入れ体制を研究し、その体制を確立するために、助成制度などを整備し、ニューツーリズム等の受け皿となり得る個人や組織を助力する。
- ③えびの市とかかわる「市外の観光資源」のメリットを最大限に生かすため、近隣自治体とも連携して、市域を越えてテーマ性で結び付くルートを作成し、広域観光ネットワークづくりを推進するとともに、個々の観光資源の魅力の向上を図る。

【重点プロジェクト7】 「観光地再生」プロジェクト

《趣旨》

○観光客入込数が低迷する温泉地や自然公園の活性化に向けて、観光地の魅力の向上のためにも、市や観光事業者などの関係者が連携し、それぞれの地域特性を生かした日常と観光を結びつけた新たな観光振興に取り組む。

《主な取組例》

- ①「花の美しさ」は人をひきつける大きな要素となるものであり、花の名所としても名高い八幡丘公園の美しい景観の育成・保全を推進する。
- ②吉田温泉に関わる歴史や文化などについて研究し、ホームページなどで成果を発信し、「宮崎最古の温泉」としてのイメージ定着を図りながら、棚田観光と結ぶルートを確立する。
- ③都市計画と同調し、地域住民と連携しながら、えびの市各駅の周辺の街並みをテーマ性で統一された空間としての整備を図る。

施策体系

- 早期かつ重点的に取り組むべき事項は「重点プロジェクト」として述べたが、今後、5年間に取り組むべき施策体系は以下のとおりである。

(1) 自然環境との共生

○地球温暖化の防止などにかかわる近年の環境意識の高まりに伴い、単なる利潤のみを追求する観光振興にとどまらず、さまざまな歴史文化的な観光資源の基盤となる自然環境の保全・保護を前提とした観光の推進が求められている。

○エコツーリズムやグリーン・ツーリズムなど、自然環境を生かしたえびのらしい観光を推進する必要がある。

○美しい景観についてはその場所のみを保全するだけでなく、例えば、物産館など新たな施設を建設する際には周辺の街並みや自然環境と同調できるデザインとし、周辺地域でもその景観との調和を崩さないことに向けた取組を推進する。

《主な取組例》

- ①自然環境に配慮した観光の推進
- ②伝統文化を生かした観光の推進
- ③本物・体験観光の推進
- ④「道」を生かした観光の推進
- ⑤美しい景観の保全と形成
- ⑥美しい景観と地域の観光魅力を組み合わせた旅行商品の開発・流通促進とPR
- ⑦植栽による緑化と清掃や花壇の整備など、地域ぐるみの地道な美化活動の推進
- ⑧歴史的に重要な施設の保全・復元、周辺の整備、当該施設を活用したソフト事業の推進
- ⑨市街地周辺の田舎らしい農山村の景観づくりと里山整備の促進

(2) 食文化の活用

○「食」は旅行の最大の楽しみの一つとされていることから、女性をはじめとした多くの観光旅行者に対する「食」の魅力を生かした取組が求められている。

○地域の旬の食材を活用するなど、地産地消を推進するとともに、伝統料理や漬物など、豊かなで多彩なえびの「食文化」を伝承・振興する必要がある。

○原産地呼称管理制度認定品やみやげ品のブランド化を推進する必要がある。

《主な取組例》

①地産地消の推進

②地域食材やそれを活用した食事の提供と、ストーリーの発見やその演出などによる食にまつわる観光の新たな魅力づくり

③伝統料理や地域の食材を使ったメニューを食する機会を盛り込んだグルメツアーの開発・実施とPR

④「えびの料理」などのブランド化の推進

(3) 人づくり

○えびのを訪れる観光旅行者の、観光サービス全般にわたる接客態度などに対する満足度は総じて低い状況にあり、その向上が求められている。

○観光産業従事者の知識や能力だけでなく、地域住民の笑顔やあいさつの心がけなど、地域全体でのホスピタリティの改善を図る必要がある。

○地域の核となって観光魅力をプロデュースできる人材や来訪者を案内する観光ガイド、観光産業の担い手などを育成し、確保する必要がある。

○観光産業を活性化するため、ホスピタリティの向上に加えて、観光事業者のマーケティングなどの経営力の向上を支援する必要がある。

《主な取組例》

- ①ホスピタリティあふれる人づくり
- ②地域全体のホスピタリティ醸成と質の向上
- ③観光ボランティアガイドの育成
- ④地域での観光を担う人材の育成
- ⑤経営相談などアドバイザーの派遣

(4) 特色ある地域づくり

○観光振興を図るためには、住民自らの地域への愛着と誇りを大切にし、地域全体の魅力を高めるための主体的な取組が求められている。

○えびの市では、地域ごとに多様な観光資源が豊富にあり、自然環境や町並み、歴史・芸術文化・祭りなど、その地域固有の観光魅力を発掘し、育むことが可能である。

○温泉地をはじめとする観光地の活性化に向けて、地域の観光資源を見直し、さらに磨きをかけて新たな価値を付与するなど、観光魅力の向上に努める必要がある。

《主な取組例》

- ①地域資源のブラッシュアップ
- ②歴史的、文化的、芸術的な観光資源や食材など地域特性を生かした観光魅力の向上
- ③温泉地の活性化
- ④産業観光の推進

(5) 受入環境の整備

○成熟化した近年の観光旅行者は、ゆったりと充実した時間を過ごすことができ、安心して観光できる環境を求めている。

○子ども、高齢者、障がい者などにやさしいユニバーサルデザインの普及やバリアフリーの推進が必要とされている。

○観光ニーズの成熟化に対応した、滞在型観光の受入を促進するため、泊食分離など多様なサービスを提供できる体制を整備するべきである。

○大型バス対応道路や観光地駐車場の整備、飛行機・新幹線・高速バス利用者の二次交通など交通アクセスの改善を推進する必要がある。

《主な取組例》

- ①ファミリーや団塊世代向けの滞在プログラムや食事の提供、連泊割引や泊食分離など多様な選択メニューや料金体系、サービスの提供
- ②人にやさしい観光地づくりの推進
- ③障がい者や高齢者などに配慮したサービス導入と施設整備の推進
- ④観光事業者のマーケティングなど経営力の向上と後継者の育成
- ⑤観光旅行者の安全確保
- ⑥観光地へのアクセス道路の改善整備と公共交通機関の観光地への回遊による利便性向上
- ⑦観光地内の街路や歩道の整備による利便性向上とうるおいのある歩行空間の創出

(6) 広域観光の振興

○高速交通網の整備などに伴う日帰り圏化、観光の広域化に対応し、地域相互の魅力を補い・高め合うため、広域的な連携が求められている。

○具体的で魅力ある広域観光ルートづくりを行うため、行政の枠組みにとらわれない地域連携により、広域観光を推進する必要がある。

○九州新幹線や高速道路の延伸による交通網整備の進展を見据え、広域的な取組を進める必要がある。

《主な取組例》

- ①地域連携の推進
- ②交通アクセスの整備
- ③高速道路、JR、バスなどの交通事業者と観光施設や宿泊事業者と連携し、周遊や施設利用、宿泊などと組み合わせた旅行商品の開発と流通促進
- ④公共交通機関の観光地回遊による利便性向上

(7) 観光型産業の推進

○えびのの自然や名所旧跡などの資源を生かした観光宣伝活動の実施により、来訪促進が求められている。

○農産物直売所の充実、おみやげ品の開発など、食による観光開発を推進する必要がある。

《主な取組例》

- ①県や近隣自治体と連携した効果的な誘客宣伝活動による誘客促進
- ②旅行しやすい環境の整備
- ③広域的な旅行商品の開発と流通促進
- ④宿泊施設や観光施設など旅行者の受入体制の拡充

(8) 情報発信

○高度情報化社会や高速交通網整備の進展に伴い、観光地間競争が激化する中、観光旅行者の視点に立って、相手の心に届くような、きめ細やかな観光情報の発信が求められている。

○口コミを活用した、地域ごとの魅力ある詳細な情報の発信を推進する必要がある。

○消費者の適切なサービス選択に資する質の高い情報の提供について検討する必要がある。

《主な取組例》

- ①季節や地理的条件に応じた地域ごとの観光情報の整理と発信
- ②観光案内所やWEBサイトなど情報発信機能の整備・充実
- ③ターゲットを絞った情報の発信
- ④戦略的な誘客宣伝活動の展開
- ⑤質の高い情報発信
- ⑥テレビ・ラジオ、新聞・雑誌、インターネット、携帯電話など様々な広報媒体を連動させて効果的な広報宣伝
- ⑦観光トップシーズン以外も観光旅行者を誘致するための戦略的で計画的な情報発信